

ショートコメント vol.218 (2021年9月9日)

テーマ：緊急事態宣言による人流減少は既に終了か
～感染第5波の収束に向けた動きに水を差す恐れも～

●感染第5波の直近の状況

新型コロナウイルスの感染状況については、このところ新規感染者数が前週を下回る日が続いている。大阪でも感染のピークアウトに言及する声も徐々に始まったが、日々の推移を見る限り、その可能性は十分にある（図表1）。

現在発出中の緊急事態宣言については、9月12日までの期限が延長される見込みであるが、このまま感染の減少が進めば、今後の解除に向けた期待も高まりそうである。

足元の感染者数の減少傾向は、やはり緊急事態宣言の一定の効果によるものといえよう。宣言も4度目となり、回を追うごとに効果が薄れているとの見方は多いが、人流の一定の抑制につながっていることは確かである。

●人流の推移にみられる変化

ただし、その人流の推移については、ここへきて少し変化がみられる。

米グーグル社が公開している位置情報をもとに、小売・娯楽関連（retail and recreation）の人出をみると、足元で減少トレンドが早くも終わろうとしている（図表2）。

緊急事態宣言が解除される前に、人流の減少傾向が緩和する動きは今回が初めてではない。ただ少なくとも、これまでの感染のピークアウトが確認された後の変化であった。

図表3は、人流の推移に、緊急事態宣言等の発出、解除のタイミングを重ねたものであるが、あくまでも感染のピークアウト後に人流のトレンドが変わるという順序である。

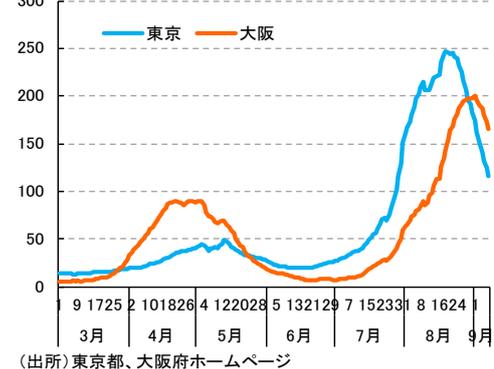
一方、今回については、感染の沈静化が確認される前に、人流が反転し始めている。

感染が沈静化する前に人流の減少傾向が終われば、新規感染者数の減少がスムーズに進まないどころか、再び増加に転じる可能性もある。

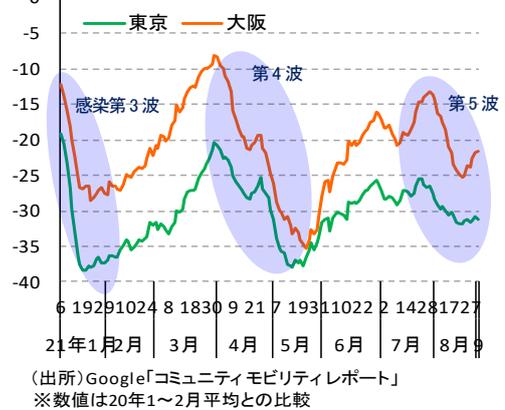
●再び感染が拡大する恐れ

今回、人流の反転が早々に始まった要因は、一つには緊急事態宣言の開始から1か月以上が経過し、いわゆる宣言慣れの空気が広がった可能性が挙げられよう。

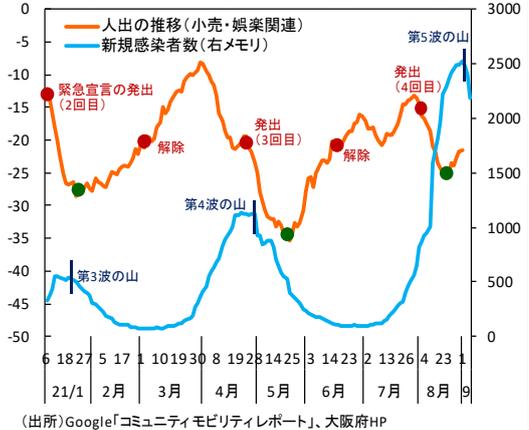
【図表1】 新型コロナの新規感染者数の推移
(人) (人口10万人当たり・過去7日間合計)



【図表2】 小売・娯楽関連の人出(平日、7日間移動平均)
(%)



【図表3】 (大阪)小売・娯楽関連の人出と新規感染者数の推移 (人)
(%)



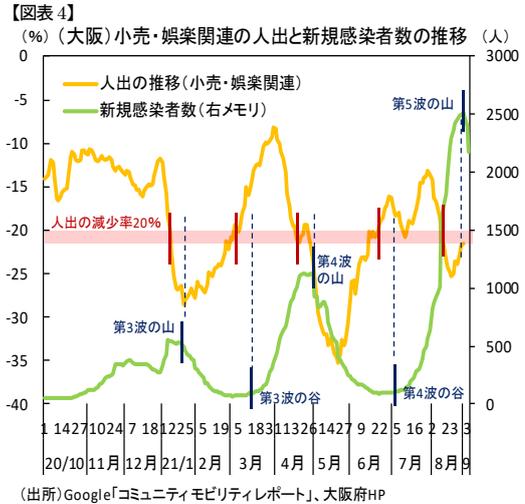
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

さらに、ワクチン接種が進んでいる中、2回の接種完了者が、徐々に外出を増やし始めている可能性も指摘できよう。

過去のトレンドをみる限り、人流がコロナ前に比べてマイナス20%という水準が一つのカギとなっている。すなわち、人流が20%を超えて減り始めると、タイムラグを経て感染が減少に向かう一方、人流の減少率が20%未満となると、やがて感染が増え始めるという関係である(図表4)。

これはあくまで過去の傾向であり、未来を予測しうるものではないが、一つの参考にはなろう。図表4をみる限り、このまま減少の緩和が進めば、いずれ人流の減少率が20%未満となる。

感染の再拡大につながる懸念も出てくるだけに、ひとまずは足元の人流の推移が注目されよう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。